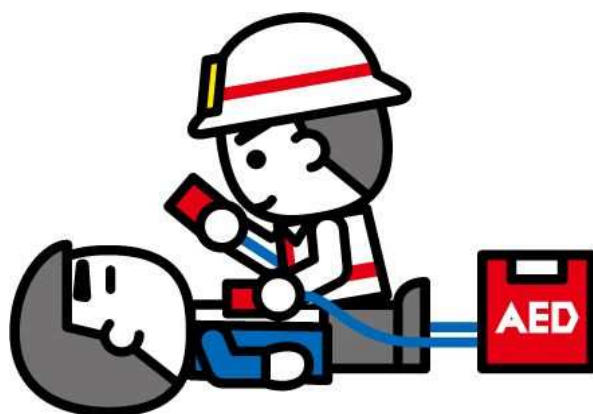


Ⅲ 救急・救助



余 白

第 1 救急活動の概況

1 救急業務実施体制

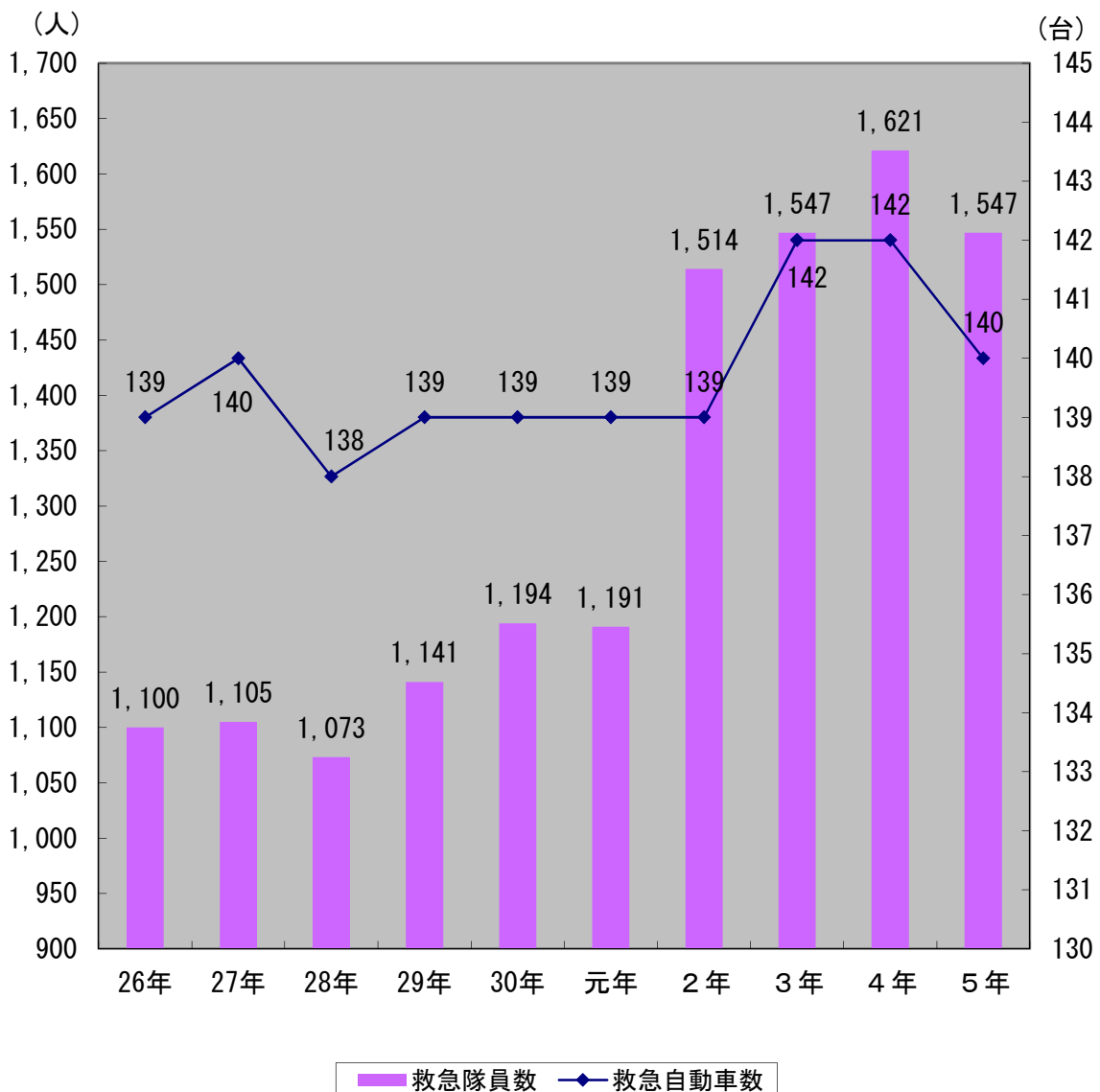
令和 5 年 4 月 1 日において救急業務を実施している市町村は41市町村で、県人口99.9%がカバーされている。

救急自動車の保有台数は140台、救急隊員は1,547人（専任314人、兼任1,233人）で、前年に比べ救急隊員は74人減少している。また、救急告示医療機関は102機関、その他医療機関は1,312機関となっている。

平成 3 年 8 月にプレホスピタル・ケア充実の一環として、救急隊員の行う応急処置の範囲が拡大されるとともに、高度な応急処置を行うための新たな国家資格制度として救急救命士制度が導入され、救命率の向上を目指した救急業務の高度化が推進されている。

令和 5 年 4 月 1 日現在、県内全消防本部で救急救命士を運用（一部運用を含む）しており、資格者合計818名のうち683名が救急業務に従事している。

図 1 過去10年間の救急自動車及び救急隊員数の推移（各年4月1日現在）



2 救急業務実施状況

(1) 概要

令和4年中における救急出動件数は94,339件、搬送人員は83,988人で、いずれも昨年を上回った。

昨年と比べると救急出動件数は12,725件（15.6％）の増加、搬送人員は10,025人（13.6％）の増加となっている。

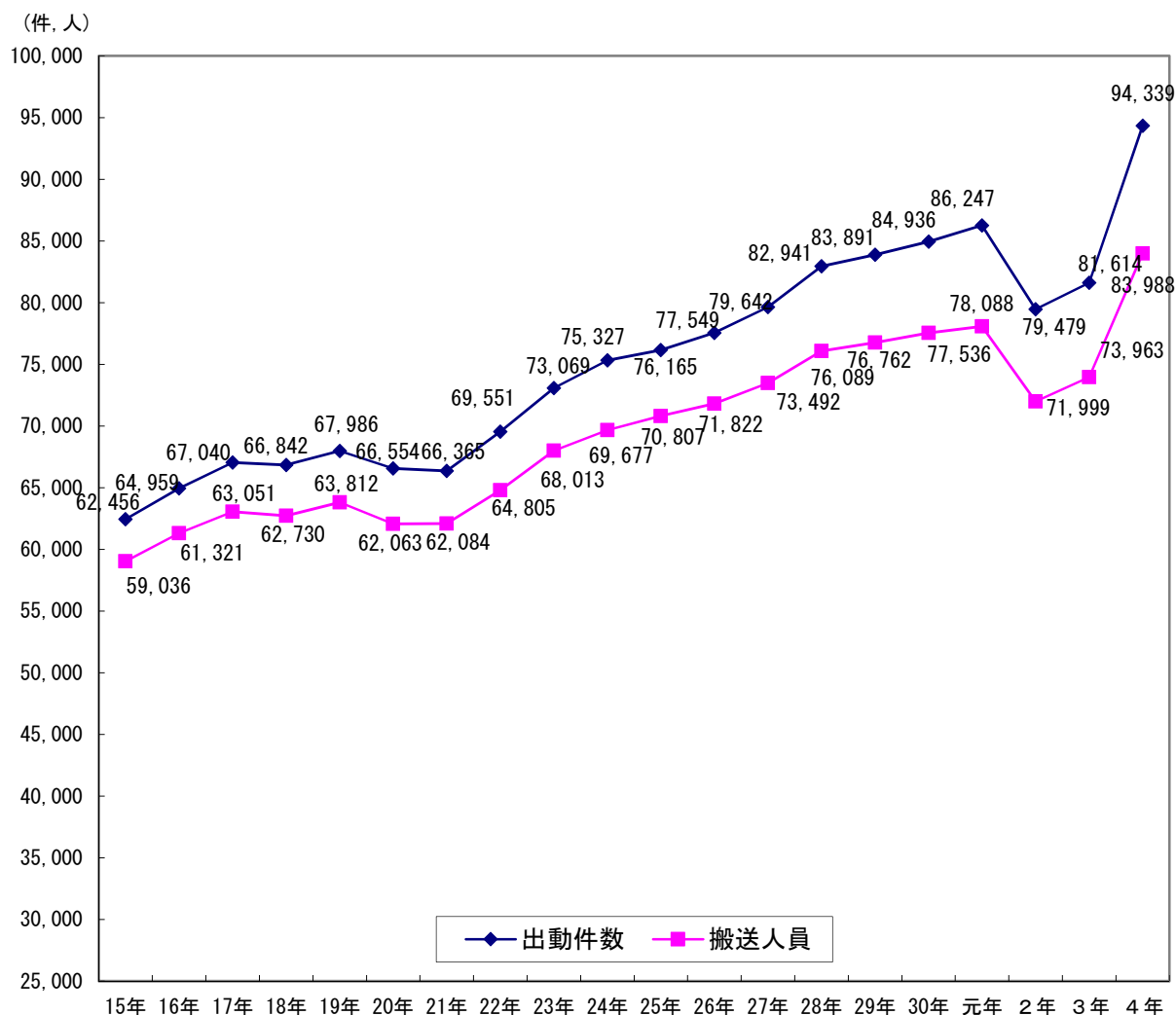
これは、1日平均258.5件（前年223.6件）、約5.6分に1回の割合で救急隊が出動し、また1日平均230.1人（前年202.6人）、約6.3分に1人の割合で搬送されていることとなる。

事故種別救急出動件数は、前年と同じく1位が急病で59,409件（全体の63.0％）、次いで、その他16,815件（同17.8％）、一般負傷が13,443件（同14.2％）となっている。

なお、搬送人員については、1位が急病で52,297人（全体の62.3％）、次いで、その他が15,179人（同18.1％）、一般負傷が12,329人（同14.7％）となり、上位3位までで全体の約95.0％を占めている。

過去20年間の県内救急活動の推移は下図のとおりであり、これまで増加の一途をたどっていた搬送人員・出動件数は、平成17年からほぼ横ばい、平成22年から再び増加に転じ、令和2年に大幅に減少したが令和3年から再び増加に転じた。

図2 過去20年間の救急出動件数、搬送人員の推移



(2) 事故種別、傷病程度別及び年齢区分別搬送人員の状況

表 1 事故種別出動件数及び搬送人員の状況

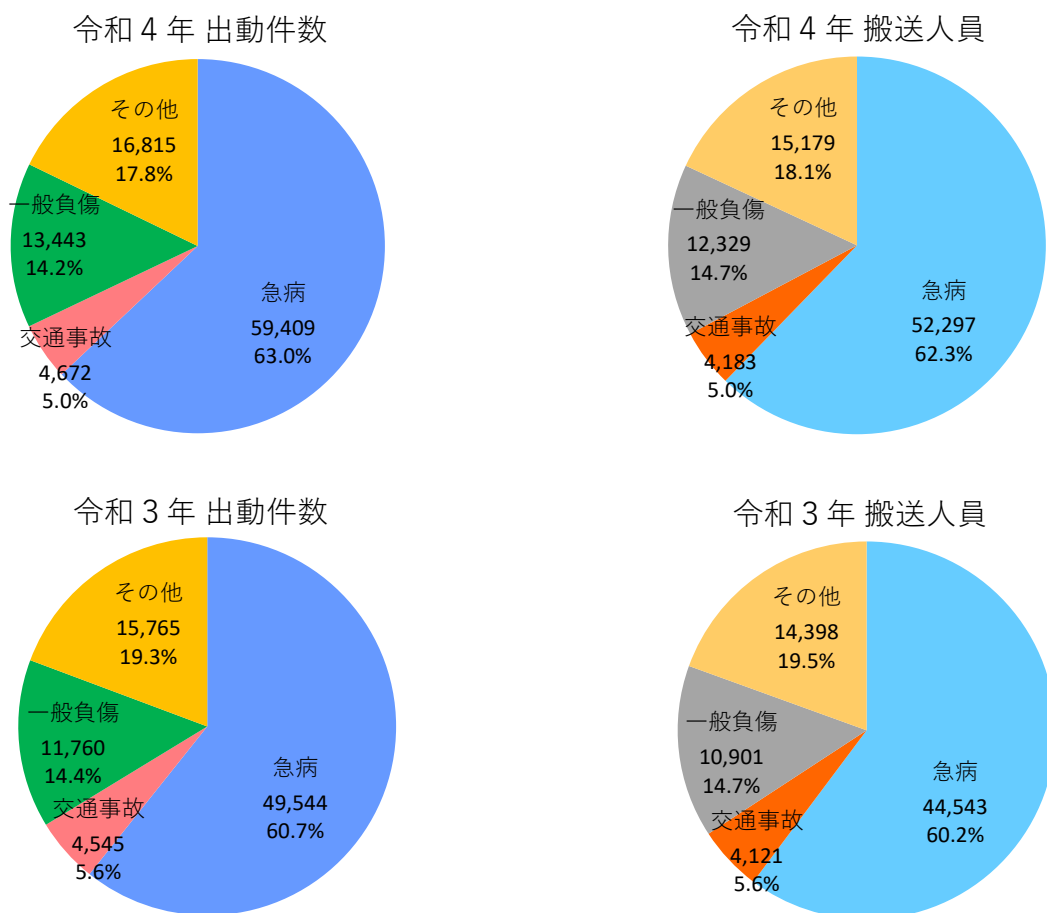
(単位：件、人、%)

区分		計	構成比	急病	構成比	交通事故	構成比	一般負傷	構成比	その他	構成比
令和4年	出動件数	94,339	100.0	59,409	63.0	4,672	5.0	13,443	14.2	16,815	17.8
	搬送人員	83,988	100.0	52,297	62.3	4,183	5.0	12,329	14.7	15,179	18.1
令和3年	出動件数	81,614	100.0	49,544	60.7	4,545	5.6	11,760	14.4	15,765	19.3
	搬送人員	73,963	100.0	44,543	60.2	4,121	5.6	10,901	14.7	14,398	19.5
増減	出動件数	12,725	—	9,865	—	127	—	1,683	—	1,050	—
	搬送人員	10,025	—	7,754	—	62	—	1,428	—	781	—

(注) その他は、火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他(転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他)を示す。

図 3

(単位：件、人、%)



ア 年齢別搬送人員

搬送人員の年齢別事故種別をみると、高齢者、成人、少年、乳幼児では、急病が半数を超える高い率を占めており、少年では他の年齢に比べ、交通事故が比較的高い比率を占めている。

表2 年齢別搬送人員の状況

(単位：人，％)

区分	計	構成比	急病	構成比	交通事故	構成比	一般負傷	構成比	その他	構成比
新生児	156	100.0	25	16.0	2	1.3	3	1.9	126	80.8
乳幼児	2,467	100.0	1,685	68.3	78	3.2	533	21.6	171	6.9
少年	2,624	100.0	1,384	52.7	388	14.8	338	12.9	514	19.6
成人	22,169	100.0	13,802	62.3	2,287	10.3	1,890	8.5	4,190	18.9
高齢者	56,572	100.0	35,401	62.6	1,428	2.5	9,565	16.9	10,178	18.0
合計	83,988	100.0	52,297	62.3	4,183	5.0	12,329	14.7	15,179	18.1

(注) 新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

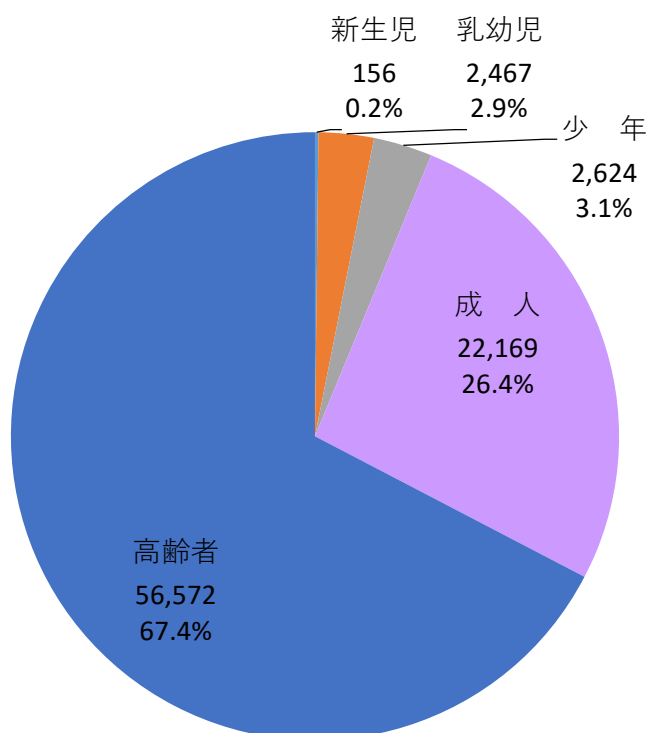
成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

(注) その他は、火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他（転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他）を示す。

(注) 構成比：搬送理由/年齢区分別搬送人員

図4



イ 傷病程度別搬送人員

令和４年中における搬送人員は83,988人であるが、これを傷病程度別に見ると、軽症、中等症の両方で全体の90.2%を占めている。

表３ 傷病程度別搬送人員の状況（事故種別）

（単位：人、％）

区分	合計	構成比	死亡	構成比	重症	構成比	中等症	構成比	軽症	構成比	その他	構成比
火災	66	100.0	2	3.0	11	16.7	18	27.3	35	53.0		
自然災害	13	100.0			3	23.1	3	23.1	7	53.8		
水難	40	100.0	16	40.0	5	12.5	9	22.5	10	25.0		
交通事故	4,183	100.0	19	0.5	212	5.1	1,254	30.0	2,698	64.5		
労働災害	782	100.0	7	0.9	101	12.9	350	44.8	323	41.3	1	0.1
運動競技	499	100.0			8	1.6	151	30.3	340	68.1		
一般負傷	12,329	100.0	55	0.4	1,136	9.2	5,989	48.6	5,146	41.7	3	0.0
加害	226	100.0	1	0.4	3	1.3	52	23.0	170	75.2		
自損行為	484	100.0	44	9.1	80	16.5	202	41.7	158	32.6		
急病	52,297	100.0	701	1.3	3,869	7.4	28,609	54.7	19,107	36.5	11	0.0
その他	13,069	100.0	18	0.1	1,922	14.7	10,756	82.3	337	2.6	36	0.3
計	83,988	100.0	863	1.0	7,350	8.8	47,393	56.4	28,331	33.7	51	0.1

- ※ 死 亡：初診時において、死亡が確認されたもの
 重 症：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
 中等症：傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの
 軽 症：傷病の程度が入院を必要としないもの
 その他：医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの
 ※ 構成比：傷病程度人数/区分合計

また、年齢別にみると、新生児、成人、高齢者の場合は中等症の割合が高いのに対し、乳幼児、少年の場合は、軽症の割合が高くなっている。

表 4 傷病程度別搬送人員の状況（年齢別区分）

（単位：人、％）

区分	合計	構成比	死亡	構成比	重症	構成比	中等症	構成比	軽症	構成比	その他	構成比
新生児	156	100.0	1	0.6	18	11.5	123	78.8	14	9.0		
乳幼児	2,467	100.0	2	0.1	27	1.1	702	28.5	1,733	70.2	3	0.12
少年	2,624	100.0	5	0.2	49	1.9	840	32.0	1,730	65.9		
成人	22,169	100.0	136	0.6	1,370	6.2	10,126	45.7	10,521	47.5	16	0.07
高齢者	56,572	100.0	719	1.3	5,886	10.4	35,602	62.9	14,333	25.3	32	0.06
計	83,988	100.0	863	1.0	7,350	8.8	47,393	56.4	28,331	33.7	51	0.06

(3) 現場到着所要時間及び収容所要時間の状況

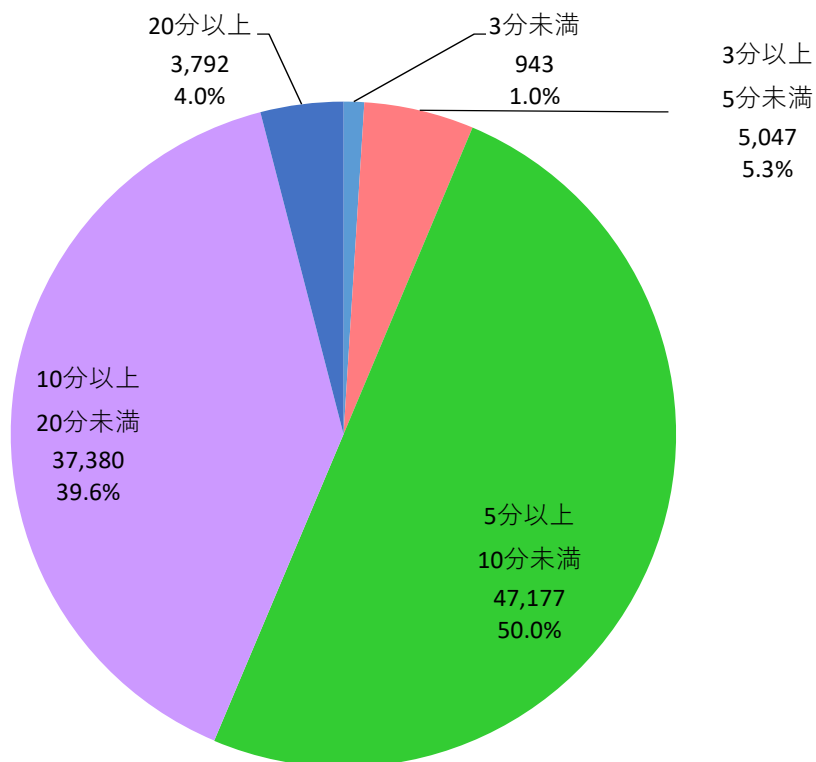
令和4年中の救急出動件数94,339件について現場到着所要時間別（救急事故の覚知から現場に到着するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。

これによると最も多いのは、5分以上～10分未満の47,177件で全体の50.0%を占めている。

表5 現場到着時間別出動件数

区分	計	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	現場到着平均 所要時間	
							県	全国
急病	59,409	477	2,211	28,905	25,384	2,432	10.1分	—
交通事故	4,672	41	209	2,147	1,944	331	10.8分	—
一般負傷	13,443	123	560	6,652	5,561	547	10.0分	—
その他	16,815	302	2,067	9,473	4,491	482	8.5分	—
計	94,339	943	5,047	47,177	37,380	3,792	9.8分	10.3分
構成比	100.0%	1.0%	5.3%	50.0%	39.6%	4.0%	—	—

図5



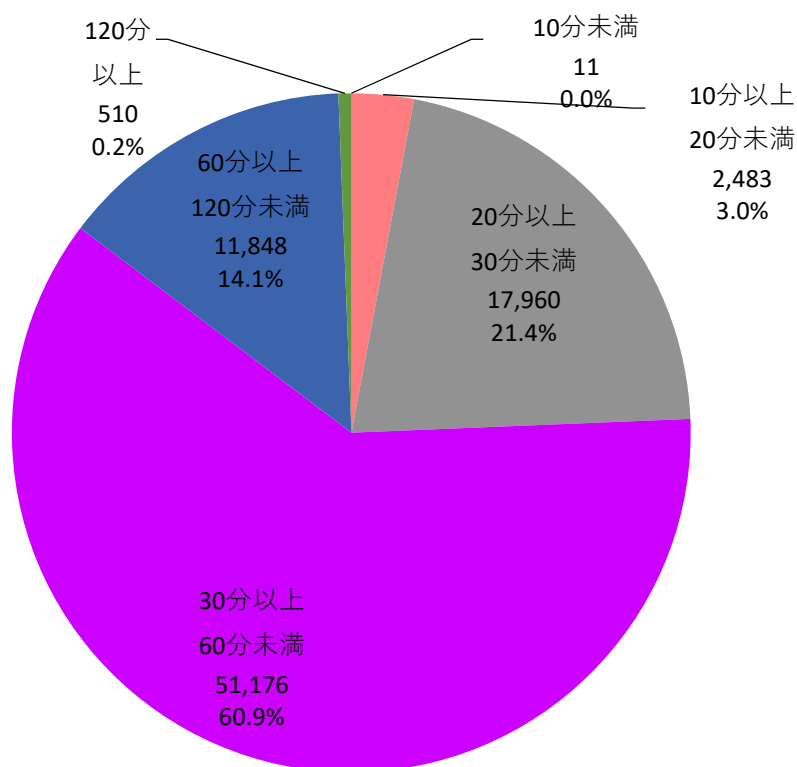
令和４年中の搬送人員83,988人について、収容所要時間別（救急事故の覚知から医療機関に収容するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。

これによると搬送人員のうち63,534人（75.6％）が収容に30分以上要している。

表６ 収容所要時間搬送人員

区分	計	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上	収容平均 所要時間	
								県	全国
急病	52,297	4	992	10,641	33,417	6,938	305	42.6分	—
交通事故	4,183		47	646	2,721	746	23	45.6分	—
一般負傷	12,329	1	195	2,347	8,122	1,597	67	43.0分	—
その他	15,179	6	1,249	4,326	6,916	2,567	115	41.5分	—
計	83,988	11	2,483	17,960	51,176	11,848	510	42.6分	47.2分
構成比	100.0%	0.0%	3.0%	21.4%	60.9%	14.1%	0.6%	—	—

図６



- (4) 事故種別転送回数別搬送人員の状況
搬送人員83,988人のうち99.5%は、転送なしで収容されており、
転送回数1回の者が転送者全体の98.8%を占めている。

表7 転送回数別搬送人員の状況

区分		計	急病	交通事故	一般負傷	その他
転送なし		83,575	52,029	4,155	12,258	15,133
転送	1回	408	264	28	70	46
	2回	5	4		1	
	3回					
	4回					
	5回以上					
	小計 (A)	413	268	28	71	46
計 (B)		83,988	52,297	4,183	12,329	15,179
転送率 (A) / (B) × 100		0.5	0.5	0.7	0.6	0.3

転送理由についてみると、救急告示医療機関、非告示医療機関ともに処置困難が多く、次いで専門外の順になっている。

表8 医療機関転送理由の状況

(単位：件，％)

区分		合計	ベッド 満床	専門外	医師不在	手術中	処置困難	理由不明	その他
救急告示	構成比	100.0	9.4	14.1	0.5	1.0	54.7		20.3
		192	18	27	1	2	105		39
非告示	構成比	100.0	2.0	18.5			62.4		17.1
		205	4	38			128		35
計	構成比	100.0	5.5	16.4	0.3	0.5	58.7		18.6
		397	22	65	1	2	233		74

(5) 救急隊員の行った応急処置の状況

令和４年中に転送された人員のうち、救急隊員によって応急処置された人の事故種別、処置項目状況をみると、急病においては、血中酸素飽和度の測定が最も多く、次いで血圧測定が多い。

また、交通事故、一般負傷においても、血中酸素飽和度の測定、血圧測定の順で処置が多くなっている。

表９ 救急隊員の行った応急処置の状況

(単位:人)

処置項目	事故種別 応急処置対象 搬送人員	計	急病	交通事故	一般負傷	その他
止	血	1,673	198	178	1,081	216
固	定	4,884	275	2,285	1,820	504
人	工	304	219	10	23	52
心	マ	140	111	4	10	15
心	肺	1,678	1,360	34	132	152
酸	素	15,564	10,441	345	719	4,059
気	道	2,260	1,822	45	171	222
(再掲)気道確保のうち気管挿管		252	189	1	40	22
保	温	6,469	4,189	267	955	1,058
被	覆	3,780	226	708	2,423	423
在	宅	300	264	1	23	12
ショックパンツによる血圧保持		2	2			
除	細	167	144	5	2	16
薬	剤	395	318	11	32	34
血	圧	79,297	49,381	4,080	11,810	14,026
聴診器による心音・呼吸音等の聴取		23,787	17,255	1,535	2,534	2,463
血中酸素飽和度の測定		81,608	50,838	4,121	12,095	14,554
心	電	52,483	36,952	1,948	6,037	7,546
静脈路確保(CPA前)		215	131	16	32	36
静脈路確保(CPA後)		688	571	11	50	56
血	糖	1,583	1,491	12	57	23
ブドウ糖投与		103	103			
その他の応急処置		64,192	40,294	3,252	9,315	11,331
計(再掲の気管挿管を除く)		341,572	216,585	18,868	49,321	56,798

(注) 一人につき複数の応急処置を行うこともあるため、応急処置対象搬送人員と事故種別ごとの処置項目の計の数は一致しない。

(6) 高速道路における救急業務の状況

高速自動車国道における救急業務実施体制は、令和5年4月1日現在、九州縦貫自動車道のうち鹿児島インターチェンジから宮崎インターチェンジ間、えびのインターチェンジから人吉インターチェンジ間を沿線3市1組合で、相互応援協定を締結し、上下線方式により、第1次出場をインターチェンジ所在の常備消防が担当する体制を整えている。

東九州自動車道31.7kmは沿線1市1組合が担当している。

県内においては、上り線が鹿児島インターチェンジから宮崎県えびのインターチェンジまでの69.8kmについて、第1次出場を担当し、救急業務を行っている。

高速自動車道における救急活動状況

表10 九州自動車道

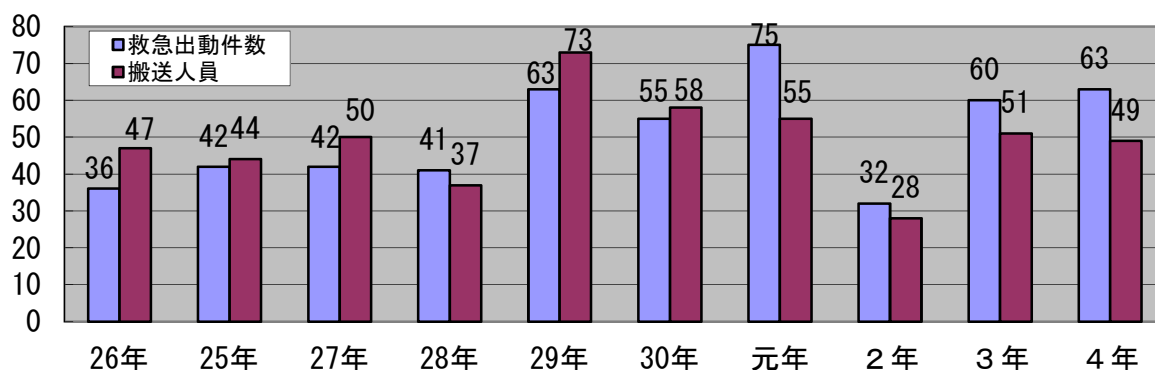
区 分	インターチェンジ名 (I C)	救急出動件数	搬送人員	救急告示 医療機関数	高速道路に おける救急活動 開始年月日
鹿児島市消防局	鹿児島			26	昭和63.3.29
	鹿児島北	9	10	12	昭和52.11.15
	薩摩吉田	10	8		昭和48.12.13
	始良				昭和48.12.13
始良市消防本部	加治木			3	昭和48.12.13
	始良	3	1	1	昭和48.12.13
	桜島スマートIC	8	5		平成30.3.30
霧島市消防局	溝辺鹿児島空港	11	11	1	平成17.11.7
	横川	3	1		平成17.11.7
伊佐湧水消防組合	栗野	1	1	3	昭和55.3.22
計	10 I C	45	37	46	

(注) 医療機関は、インターチェンジから半径5キロメートルの範囲にあるものである。

表11 東九州自動車道

区 分	インターチェンジ名 (I C)	救急出動件数	搬送人員	救急告示 医療機関数	高速道路に おける救急活動 開始年月日
霧島市消防局	国分パーキング			5	平成12.3.4
	国分	8	8	4	平成14.3.2
	隼人東			4	平成12.3.4
	隼人西	2	2	1	平成12.3.4
大隅曾於地区消防組合	末吉財部	8	2		平成14.5.9
計	5 I C	18	12	14	

図7 最近10年間の高速自動車道における救急出動件数及び搬送人員



3 プレホスピタル・ケアの充実

プレホスピタル・ケア（救急現場及び搬送途上における応急処置）の一層の充実を図るために、平成3年8月に「救急隊員の行う応急処置等の基準」が改正され、これに伴い消防学校における新たな教育訓練（救急標準課程（平成16年4月1日より救急科に改称）及び救急Ⅱ課程）の修了者は、従来の応急処置に加えて9項目の処置を行うものとされ、救急救命士資格者は、医師の指示の下にさらに高度な応急処置（特定3項目）をも行うものとされた。

これに伴い、消防学校における救急科（救急標準課程）の修了者が計画的に養成されるとともに、救急救命士についても県内全消防本部において運用され、資格者、高規格救急自動車のいずれも着実に増加している。

また、救急救命士の質の向上による救命効果を高めるため、平成15年2月に消防機関、救急医療機関、医師会などにより構成される鹿児島県救急業務高度化協議会を、同年3月に6地域（薩摩、北薩、始良伊佐、大隅、熊毛、大島）に地域救急業務高度化協議会を設置し、平成15年4月から包括的除細動を実施し、平成16年7月から認められた医師の具体的指示下での気管挿管についても救急業務高度化協議会で承認された病院で、体制の整った消防本部から順次病院実習を実施し、519名が認定を受け20消防本部で実施が可能となっている。

平成18年4月から認められた医師の具体的指示下での薬剤投与について762名が認定・登録を受け、平成26年4月には「心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与」の実施が追加され、714名が認定・登録を受け、20消防本部で実施が可能となっている。

さらに、救急現場近くの一般市民による応急手当を促進するため、令和4年12月末までに応急手当指導員3,212名、応急手当普及員875名が県内消防本部により養成され、住民に対する応急手当講習会が次のとおり実施されている。

なお、平成16年12月に応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱の一部改正により、非医療従事者による自動体外式除細動器（AED）の使用が可能となったことから、AEDの内容を含めた救命講習の実施率が高くなっている。

令和4年中の住民に対する応急手当講習会実施状況

普通救命講習	615回	9,846名受講
上級救命講習	29回	318名受講
救命入門コース	250回	5,870名受講
その他の講習	704回	15,523名受講
計	1,598回	31,557名受講

表12 救急業務高度化の推進状況

各年4月1日現在

区分	令和5年	令和4年	対前年比較	
			増減数	増減率
救急救命士運用消防本部数	20	20		1.00
救急隊員数①	1,547	1,259	288	1.23
うち救急救命士有資格者② (②/①:%)	683 (44.1%)	640 (50.8%)	43	1.07
(②のうち気管挿管認定者)	415	385	30	1.08
(②のうち薬剤投与認定者)	636	593	43	1.07
(②のうち処置拡大認定者)	629	583	46	1.08
うち救急科（救急標準課程） (③/①:%)	817 (52.8%)	581 (46.1%)	236	1.41
救急自動車数④	140	142	△2	0.99
うち高規格車⑤ (⑤/④:%)	136 (97.1%)	137 (96.5%)	△1	0.99
救急隊数⑥	118	117	1	1.01
うち救急救命士運用隊⑦ (⑦/⑥:%)	117 (99.2%)	116 (99.1%)	1	1.01

※1 救急隊員として専任又は兼任の辞令を受けている救急救命士資格者数は644名、専任及び兼任の者が休日等の時、代替として救急業務に従事する資格者が39名、救急自動車に搭乗しない資格者が135名で、有資格者は計818名いる。

表13 救急業務実施体制等の状況（消防本部設置市町村）

区分 消防本部別	人口 (人) R2年 国調	面積 (km ²)	救 急 体 制											
			救急車総数 (台)		救急 隊数	救急救命 士運用隊 数※2	救急隊員数 (人)							
							計	うち資格者・修了者				専任	兼任	
			うち 高規格	うち 予備車				救急救命 士	標準 課程	救急 Ⅰ課程	救急 Ⅱ課程			
鹿児島市消防局	593,128	547.61	23	23	5	18	18	235	92	137	2	4	81	154
枕崎市消防本部	20,033	74.78	3	3		2	2	41	15	23		3		41
出水市消防本部	51,994	329.98	3	3		4	3	52	22	30			16	36
垂水市消防本部	13,554	162.12	3	2	1	2	2	37	16	20		1		37
薩摩川内市消防局	92,403	682.92	8	8		7	7	77	33	42	1	1	22	55
日置市消防本部	47,153	253.01	4	4	1	3	3	47	21	26			17	30
霧島市消防局	123,135	603.17	8	8		8	8	122	51	71			48	74
いちき串木野市 消防本部	27,490	112.3	3	3	1	2	2	24	10	14				24
南さつま市消防本部	32,887	283.59	5	5		5	5	73	24	48		1	24	49
始良市消防本部	76,348	231.25	5	5	1	4	4	56	33	23			44	12
さつま町消防本部	22,400	303.9	3	3		3	3	34	15	18		1		34
指宿南九州消防組合	72,091	506.72	8	8		8	8	114	46	65		3		114
阿久根地区消防組合	28,975	250.5	6	6	2	4	4	59	26	26		7		59
伊佐湧水消防組合	33,591	536.85	6	6	1	5	5	81	34	43		4		81
大隅曽於地区消防組合	78,257	781.03	9	9	2	7	7	76	44	31		1	28	48
大隅肝属地区消防組合	134,985	1160.79	12	12	2	10	10	110	46	64			28	82
沖永良部与論地区 広域事務組合	18,182	114.27	4	4	2	2	2	37	22	13		2		37
徳之島地区消防組合	23,497	248.03	4	3	1	6	6	50	28	22				50
熊毛地区消防組合	39,550	993.03	10	9	4	6	6	87	40	36		11		87
大島地区消防組合	65,367	877.95	13	12	1	12	12	135	65	65		5	6	129
計	1,595,020	95,970.85	140	136	24	118	117	1,547	※1 683	817	3	44	314	1,233

※1 救急隊員として専任又は兼任の辞令を受けている救急救命士資格者数は644名、専任及び兼任の者が休日等の時、代替として救急業務に従事する資格者が39名、救急自動車に搭乗しない資格者が135名で、有資格者は計818名いる。

※2 救急救命士運用隊数は、一部運用も含む。

〔現場到着平均所要時間及び収容平均所要時間は令和４年中、左記以外は令和５年４月１日現在〕

医 療 機 関 数											人口10 万人当 たりの 救急医 療機関 数	現場到 着平均 所要間 (分)	収容平 均所要 時間 (分)
合計	救急告示医療機関					その他の医療機関							
	国 公 立	公 的	私 的		計	国 公 立	公 的	私 的		計			
			病 院	診療所				病 院	診療所				
674	3	3	27	4	37	16	7	79	535	637	6.2	9.5	36.5
22	1		3		4	1		7	10	18	20.0	5.2	38.3
40	1				1	3		4	32	39	1.9	8.9	39.2
8	1				1	1			6	7	7.4	8.8	51.4
86		1	6		7	5	1	11	62	79	7.6	9.8	45.5
41			2		2			9	30	39	4.2	9.5	44.9
97	1		6		7	1		13	76	90	5.7	10.0	46.2
27								6	21	27		7.6	41.3
35	2		1		3	5		5	22	32	9.1	9.9	48.6
70			4		4	3		9	54	66	5.2	9.3	42.7
18			1		1			4	13	17	4.5	10.3	62.8
67	1		3	1	5	1		14	47	62	6.9	11.2	47.2
21			2		2	4		3	12	19	6.9	10.0	44.6
29	1		2		3	1		6	19	26	8.9	9.9	50.5
42			1	2	3			7	32	39	3.8	10.4	56.0
115	2		6	1	9	14		15	77	106	6.7	11.3	46.6
10			2		2			2	6	8	11.0	9.2	33.0
11			2	1	3			3	5	8	12.8	11.2	46.8
22	1		2		3	5		3	11	19	7.6	9.8	45.0
81	1		4		5	12	1	8	55	76	7.6	10.9	43.3
1,516	15	4	74	9	102	72	9	208	1,125	1,414	6.4	9.5	40.9

表14 消防本部救急出動件数及び搬送人員

区分		事 故 種 別 救 急 出 動 件										
		計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病
消防本部名												
鹿児島市消防局		36,645	84	6	15	1,736	217	194	4,949	178	336	24,561
枕崎市消防本部		1,269	4		1	52	17	5	152	3	9	693
出水市消防本部		2,309	1			146	22	16	338	10	23	1,488
垂水市消防本部		1,010			4	58	7	7	133	1	4	640
薩摩川内市消防局		4,667	19		5	269	36	38	590	6	33	2,653
日置市消防本部		2,530	2		1	98	24	24	374	6	13	1,424
霧島市消防本部		7,229	15	1	1	466	65	29	1,002	22	57	4,325
いちき串木野市消防本部		1,413			1	66	20	15	228	4	9	771
南さつま市消防本部		2,011	3		3	97	28	11	301	3	11	1,169
始良市消防本部		4,172			7	193	27	19	630	7	21	2,601
さつま町消防本部		1,155	1			59	17	6	189	4	6	649
指宿南九州消防組合		4,306	1		3	206	62	32	657	9	31	2,267
阿久根地区消防組合		1,969			3	78	21	3	318	1	7	1,196
伊佐湧水消防組合		2,089	1		3	119	10	2	327		12	1,166
大隅曾於地区消防組合		4,428	5	3	5	249	74	24	629	6	40	2,818
大隅肝属地区消防組合		7,363	10		4	414	110	46	990	16	64	4,686
沖永良部与論地区 広域事務組合		878			5	31	11	16	141	1	8	578
徳之島地区消防組合		1,802	2		2	70	8	9	284	1	7	1,174
熊毛地区消防組合		2,361	4	3	4	85	26	8	395	6	9	1,563
大島地区消防組合		4,733		3	24	180	29	10	816	13	43	2,987
計		94,339	152	16	91	4,672	831	514	13,443	297	743	59,409
時 間 別	0～2	3,770	8	2	4	71	5		464	33	44	2,852
	2～4	2,868	1			62	6		309	48	30	2,229
	4～6	3,136	4		6	89	3	1	364	19	25	2,431
	6～8	6,037	13		6	428	31	2	944	15	64	4,262
	8～10	11,580	10	5	8	638	141	25	1,890	14	72	7,065
	10～12	12,541	23		10	587	188	134	1,814	16	74	6,905
	12～14	11,531	17	3	12	612	140	96	1,513	15	65	6,408
	14～16	10,645	29	2	23	540	151	120	1,550	13	80	6,068
	16～18	10,591	16	3	11	713	101	64	1,598	25	95	6,041
	18～20	9,240	10	1	5	575	37	47	1,340	21	79	6,145
	20～22	7,144	13		5	250	21	24	973	31	71	5,118
	22～24	5,256	8		1	107	7	1	684	47	44	3,885

〔令和４年中〕

数				事 故 種 別 搬 送 人 員											
そ の 他				計	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他
転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 輸 機 材 等 送	そ の 他												
3,734			635	31,415	25	6	7	1,516	197	188	4,451	132	224	20,947	3,722
327	1		5	1,213	9			49	17	4	146	1	7	657	323
250			15	2,115	1			129	22	15	313	8	19	1,354	254
154			2	968			2	61	7	6	131	1	3	603	154
969	5		44	4,145	2			234	35	39	548	3	16	2,331	937
559			5	2,368	1			98	23	24	362	4	7	1,297	552
1,211	6	1	28	6,664	9		1	407	61	29	929	19	42	3,959	1,208
299				1,318			1	64	19	15	212	4	4	704	295
361			24	1,876				90	27	11	286	2	4	1,099	357
662	2		3	3,875			3	186	27	19	583	6	18	2,372	661
222	2			1,054	1			55	17	6	174	4	1	576	220
1,032	1		5	4,045			3	197	56	31	623	7	19	2,086	1,023
331		1	10	1,867			2	78	20	3	309	1	4	1,119	331
448			1	2,012	1		2	126	10	2	317		8	1,099	447
569	1		5	4,074	3	1	4	204	72	23	587	6	30	2,579	565
1,019	1		3	6,618	7		2	363	105	42	904	11	39	4,132	1,013
68			19	824			5	29	10	16	131	1	4	560	68
148			97	1,706	2		2	74	8	9	283	1	4	1,175	148
231	20		7	2,186	5	3		83	25	8	371	6	6	1,451	228
583	6		39	3,645		3	6	140	24	9	669	9	25	2,197	563
13,177	45	2	947	83,988	66	13	40	4,183	782	499	12,329	226	484	52,297	13,069
223			64	3,233	5	2	2	62	5		402	25	35	2,476	219
135			48	2,515				53	6		282	40	28	1,971	135
128			66	2,772			2	80	3	1	332	14	19	2,195	126
190	1		81	5,405	3		3	371	30	2	889	10	41	3,868	188
1,628	3	1	80	10,426	4	4		556	131	24	1,799	12	38	6,258	1,600
2,697	10		83	11,319	10		6	530	172	133	1,693	12	51	6,038	2,674
2,567	10		73	10,425	8	2	5	560	133	94	1,390	11	39	5,635	2,548
1,954	13		102	9,562	18	2	10	499	144	117	1,440	10	51	5,329	1,942
1,820	7		97	9,471	6	3	5	637	98	59	1,447	22	53	5,328	1,813
882			98	8,109	3		4	520	36	45	1,212	15	49	5,347	878
561	1	1	75	6,187	8		2	219	17	23	863	22	46	4,430	557
392			80	4,564	1		1	96	7	1	580	33	34	3,422	389

表15 曜日別月別救急出動件数

(令和4年中)

事故種別 (件) 区分		火災	自然 災害	水難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	そ の 他				計
												転院 搬送	医師 搬送	資機 材等 輸送	その他	
曜 日 別	月	22	2	12	713	134	42	1,937	41	122	8,831	2,164	6		153	14,179
	火	20	1	13	723	134	60	1,819	36	120	8,519	2,201	5	1	108	13,760
	水	20	2	12	697	161	60	1,869	39	92	8,260	1,938	6		130	13,286
	木	10		7	590	137	54	1,884	47	120	8,401	2,062	13		129	13,454
	金	30		17	734	130	49	1,871	26	101	8,418	2,199	10		128	13,713
	土	21		14	709	93	107	2,010	46	92	8,360	1,640	3		138	13,233
	日	29	11	16	506	42	142	2,053	62	96	8,619	973	2	1	161	12,713
計		152	16	91	4,672	831	514	13,443	297	743	59,408	13,177	45	2	947	94,338
月 別	1月	9	3	6	318	49	7	1106	28	75	4,838	1,084	4		81	7,608
	2月	10		2	285	50	15	952	21	55	4,303	1,029	9	1	58	6,790
	3月	19		2	339	52	24	1039	14	67	4,542	1,166	1		66	7,331
	4月	23		11	387	55	34	986	22	53	4,419	1,078	4		69	7,141
	5月	8		2	366	53	60	1127	35	84	4,421	1087			56	7,299
	6月	10		13	405	88	53	1015	26	58	4,380	1097	2		59	7,206
	7月	10	1	15	418	85	71	1104	21	64	5,761	1102	6		100	8,758
	8月	11		8	448	124	56	1153	27	58	6,854	1106	4		79	9,928
	9月	9	12	12	349	79	62	1129	15	58	4,998	1124	4		87	7,938
	10月	16		3	476	76	56	1230	32	58	4,531	980	3		97	7,558
	11月	9		12	417	68	44	1113	22	62	4,352	1085	4	1	93	7,282
	12月	18		5	464	52	32	1489	34	51	6,010	1,239	4		102	9,500

4 応急手当指導員等養成講習の状況

表16

【指導員】

区分		講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数
		計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他		
当 該 年 中 修 了 者	応急手当指導員講習Ⅰ	63	40	22		1			4
	応急手当指導員講習Ⅱ	11	11						11
	応急手当指導員講習Ⅲ								
	消防長認定者	93	74	6	1	12		1	
	応急手当指導員講習Ⅰ免除者	6	6						
	計	173	131	28	1	13		1	15
前 年 中 ま で の 修 了 者	応急手当指導員講習Ⅰ	443	297	51	60	35		19	82
	応急手当指導員講習Ⅱ	1,617	611	1	1,005				486
	応急手当指導員講習Ⅲ	8	1		7			4	2
	消防長認定者	646	585	35	1	23	2	19	
	応急手当指導員講習Ⅰ免除者	325	308	16			1	21	
	計	3,039	1,802	103	1,073	58	3	63	570
合計		3,212	1,933	131	1,074	71	3	64	585

表17

【普及員】

区分		講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数
		計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他		
当 該 年 中 修 了 者	応急手当普及員講習Ⅰ	45			1	2	42		5
	応急手当普及員講習Ⅱ	1				1			
	消防長認定者	2				1	1		
	応急手当普及員講習Ⅱ免除者								
	計	48			1	4	43		5
前 年 中 ま で の 修 了 者	応急手当普及員講習Ⅰ	774	1		77	3	693	29	62
	応急手当普及員講習Ⅱ	29		1	20		8		1
	消防長認定者	24					24		
	応急手当普及員講習Ⅱ免除者								
	計	827	1	1	97	3	725	29	63
合計		875	1	1	98	7	768	29	68

第 2 救助活動の概況

1 救助業務実施体制

令和 5 年 4 月 1 日現在、救助隊は 33 隊配置されており、そのうち 4 隊が特別救助隊で、1 隊が高度救助隊である。

また、434 人の救助隊員のうち 40.8% にあたる 177 人が専任救助隊員である。

表 18 救助体制

(単位：隊、人)

区分	救助隊数			救助隊員数		
	省令	専任救助隊	兼任救助隊	計	専任救助隊員	兼任救助隊員
消防本部						
鹿児島市消防局	3	3		3	42	
	4	2		2	28	
	5	1		1	14	
枕崎市消防本部	3		1	1		10
	4					
	5					
出水市消防本部	3	1		1	8	
	4					
	5					
垂水市消防本部	3		1	1		8
	4					
	5					
薩摩川内市消防局	3	1		1	11	
	4	1		1	11	
	5					
日置市消防本部	3		1	1		16
	4					
	5					
霧島市消防局	3		2	2	2	12
	4					
	5					
いちき串木野市消防本部	3		1	1		6
	4					
	5					
南さつま市消防本部	3	1		1		10
	4					
	5					
姶良市消防本部	3	1		1	10	
	4					
	5					
さつま町消防本部	3		1	1		12
	4					
	5					
指宿南九州消防組合	3		2	2		20
	4					
	5					
阿久根地区消防組合	3		1	1		26
	4					
	5					
伊佐湧水消防組合	3		2	2		28
	4					
	5					
大隅曾於地区消防組合	3	2		2	19	
	4					
	5					
大隅肝属地区消防組合	3	1	2	3	10	36
	4	1		1	10	
	5					
沖永良部与論地区広域事務組合	3		1	1		23
	4					
	5					
徳之島地区消防組合	3		1	1		31
	4					
	5					
熊毛地区消防組合	3		1	1		19
	4					
	5					
大島地区消防組合	3	1		1	12	
	4					
	5					
県計	3	11	17	28	114	257
	4	4		4	49	
	5	1		1	14	

※ 省令 3 は省令第 3 条の規定による救助隊、省令 4 は省令第 4 条の規定による救助隊（特別救助隊）、省令 5 は省令第 5 条の規定による救助隊（高度救助隊）

表19 救助隊が搭乗する車両

区 分	救 助 車	はしご車	屈 折 はしご車	ポンプ車	水 槽 付 ポンプ車	化 学 車	そ の 他	計
消防本部								
鹿 児 島 市 消 防 局	3							3
枕 崎 市 消 防 本 部	1		1					2
出 水 市 消 防 本 部	1	1						2
垂 水 市 消 防 本 部							1	1
薩 摩 川 内 市 消 防 局	1							1
日 置 市 消 防 本 部	1							1
霧 島 市 消 防 局	1	2			1			4
い ち き 串 木 野 市 消 防 本 部	1	1						2
南さつま市消防本部	1	1					1	3
始 良 市 消 防 本 部	1							1
さ つ ま 町 消 防 本 部	1							1
指宿南九州消防組合	2	1						3
阿久根地区消防組合	1						1	2
伊 佐 湧 水 消 防 組 合	2							2
大隅曾於地区消防組合	2	1			2		2	7
大隅肝属地区消防組合	1	1						2
沖 永 良 部 与 論 地 区 広 域 事 務 組 合	1							1
徳之島地区消防組合	1							1
熊 毛 地 区 消 防 組 合	1							1
大 島 地 区 消 防 組 合	1	1						2
県 計	24	9	1		3		5	42

2 救助業務実施状況

令和4年中における救助業務の実施状況は、救助出動件数729件、救助活動件数471件、救助人員523人となっている。（表22）

これを前年と比較すると出動件数は22件（3.1％）の減少、活動件数は同数、救助人員は21人（3.9％）の減少となっている。

図8 過去20年間の救助業務実施状況の推移

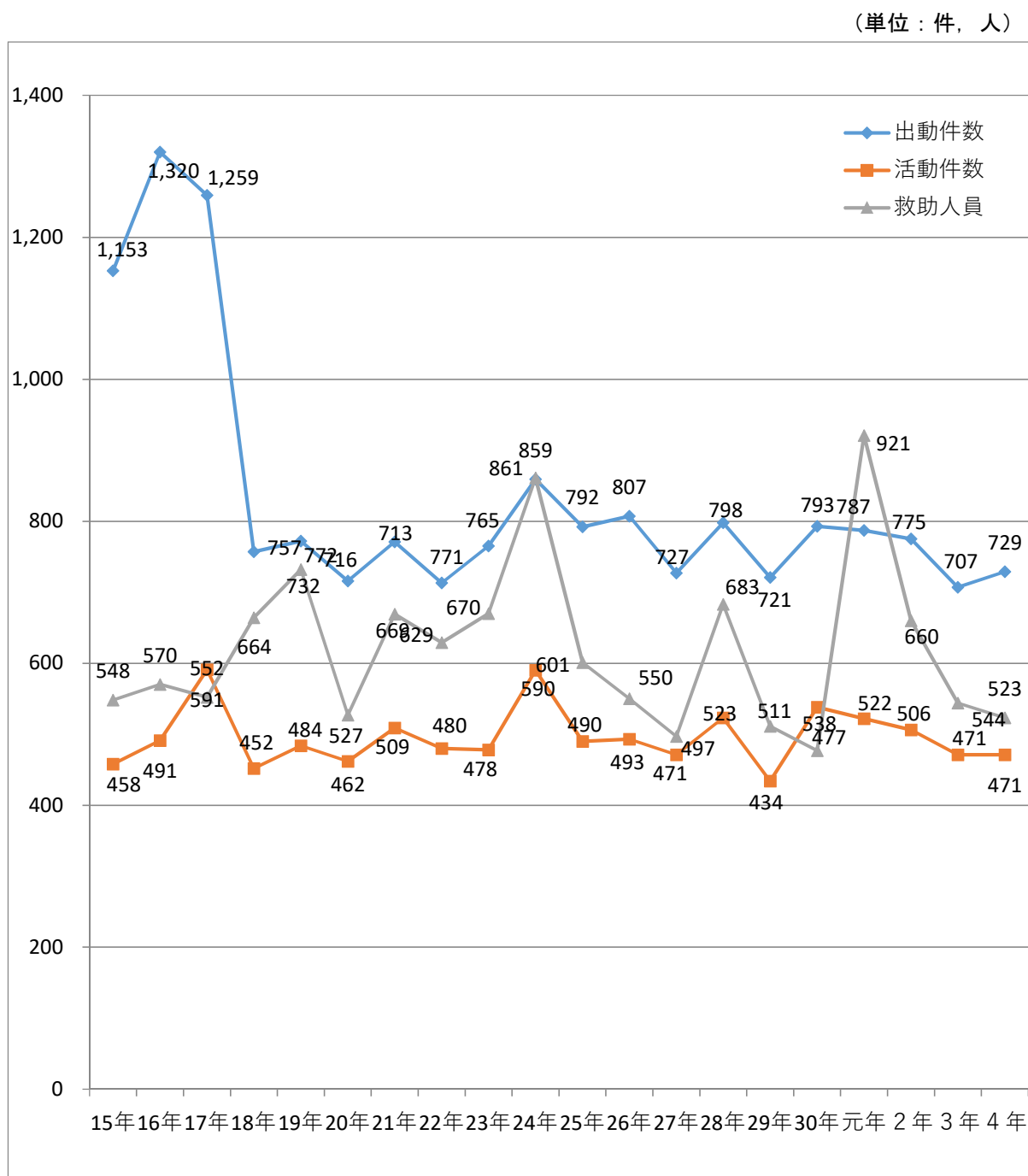


表20 事故種別出動件数及び出動人員の状況（令和4年）

（単位：件、人）

事故種別		火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 水 災 害 等	事 機 械 に よ る	よ 建 る 物 事 等 故 に	酸 ガ ス 事 及 故 び	破 裂 事 故	事 そ の 他 の 故	計
消防本部											
鹿児島市消防局		3	69	11		1	16	6		28	134
枕崎市消防本部			8			1	4			2	15
出水市消防本部			9							9	18
垂水市消防本部			6	2						3	11
薩摩川内市消防局		1	21	6		1	6			7	42
日置市消防本部			16	1		2				7	26
霧島市消防局			37	2		1	4			23	67
いちき串木野市消防本部			10	2						1	13
南さつま市消防本部		3	10	1		2	7	1		8	32
始良市消防本部			18	8						9	35
さつま町消防本部			6							9	15
指宿南九州消防組合		3	24	2		5	16	1		29	80
阿久根地区消防組合			9	2		1				5	17
伊佐湧水消防組合			17	2		1				2	22
大隅曽於地区消防組合			30	6	1					11	48
大隅肝属地区消防組合		2	31	2		8	5	1		4	53
沖永良部与論地区広域事務組合			2	4		1				1	8
徳之島地区消防組合			2	1		1					4
熊毛地区消防組合			8	5		2				15	30
大島地区消防組合			25	10		2	3			19	59
救助出動件数 計		12	358	67	1	29	61	9		192	729
救助出動人員	専任救助隊員	50	915	165	3	53	182	22		362	1,752
	兼任救助隊員	23	454	78		58	64	5		236	918
	消防隊員	147	1,112	295	3	62	130	8		629	2,386
	救急隊員	42	1,551	227	3	93	185	16		609	2,726
	消防団員	162		8						552	722
	計	424	4,032	773	9	266	561	51		2,388	8,504

表21 事故種別活動件数及び活動人員の状況（令和4年）

（単位：件、人）

事故種別		火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 水 災 害 等	事 機 械 に よ る	よ 建 る 物 事 等	酸 ガ ス 事 及 び	破 裂 事 故	事 そ の 他 の 故	計
消防本部											
鹿児島市消防局		3	53	9		1	15	2		25	108
枕崎市消防本部			4				3			2	9
出水市消防本部			6							6	12
垂水市消防本部			4	1						1	6
薩摩川内市消防局		1	18	5		1	3			6	34
日置市消防本部			11	1		1				4	17
霧島市消防局			20	1			2			12	35
いちき串木野市消防本部			1	2						1	4
南さつま市消防本部		3	6	1			2	1		8	21
始良市消防本部			18	5						8	31
さつま町消防本部			3							7	10
指宿南九州消防組合		3	17	1		3	8	1		24	57
阿久根地区消防組合			6	2		1				3	12
伊佐湧水消防組合			9	1						1	11
大隅曾於地区消防組合			12	5						7	24
大隅肝属地区消防組合		2	14			4	5	1		3	29
沖永良部与論地区広域事務組合			1	3		1				1	6
徳之島地区消防組合			2	1		1					4
熊毛地区消防組合			5	3						14	22
大島地区消防組合			2	8			3			6	19
救助活動件数 計		12	212	49		13	41	5		139	471
救助活動人員	専任救助隊員	47	395	111		16	76	22		192	859
	兼任救助隊員	23	222	51		32	37	2		146	513
	消防隊員	102	616	186		23	74	8		438	1,447
	救急隊員	33	779	132		38	98	12		403	1,495
	消防団員	45		7						503	555
	計	250	2,012	487		109	285	44		1,682	4,869

（注）「救助活動件数」とは、救助出動件数のうち、実際に救助活動を行った件数をいう。

表22 事故種別救助人員の状況（令和4年）

（単位：人）

事故種別 消防本部	火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 風 然 水 災 害 等	事 機 械 に よ る	よ 建 る 物 事 等 故 に	酸 ガ ス 事 及 故 び	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故	計
鹿 児 島 市 消 防 局	3	61	8		1	13			26	112
枕 崎 市 消 防 本 部		4				3			2	9
出 水 市 消 防 本 部		6							5	11
垂 水 市 消 防 本 部		9	2						1	12
薩 摩 川 内 市 消 防 局	1	19	4		1	3			6	34
日 置 市 消 防 本 部		16	1		1				4	22
霧 島 市 消 防 局		20	1			3			12	36
い ち き 串 木 野 市 消 防 本 部		1	2						2	5
南さつま市消防本部	1	6	1			2	1		9	20
始 良 市 消 防 本 部		30	6						8	44
さ つ ま 町 消 防 本 部		3							7	10
指宿南九州消防組合	3	20	1		3	8			17	52
阿久根地区消防組合		19	7		4				10	40
伊 佐 湧 水 消 防 組 合		10	1						1	12
大隅曾於地区消防組合		12	5						6	23
大隅肝属地区消防組合	1	14			4	5			3	27
沖 永 良 部 与 論 地 区 広 域 事 務 組 合		1	4		1				1	7
徳之島地区消防組合		4	1		1					6
熊 毛 地 区 消 防 組 合		5	2						14	21
大 島 地 区 消 防 組 合		2	9			3			6	20
救助人員 計	9	262	55		16	40	1		140	523

表23 救助活動のための機械器具等の保有状況（救助隊保有分）

一般用救助用器具	かぎ付きはしご	38
	三連はしご	28
	金属折りたたみはしご又はワイヤはしご	15
	空気式救助マット	12
	救命索発射銃	29
	サバイバースリング又は救助用縛帯	88
	平担架	14
重量物排除用器具	油圧ジャッキ	36
	油圧スプレッダー	16
	可搬ウィンチ	33
	マンホール救助器具	27
	救助用簡易起重機	4
	マット型空気ジャッキ	31
	大型油圧スプレッダー	28
	救助用支柱器具	23
	チェーンブロック	11
	油圧切断機	17
切断用器具	エンジンカッター	31
	ガス溶断機	19
	チェーンソー	42
	鉄線カッター	54
	空気鋸	30
	大型油圧切断機	28
	空気切断機	16
	コンクリート・鉄筋切断用チェーンソー	7
	万能斧	80
	ハンマー	41
破壊用器具	携帯用コンクリート破壊器具	22
	削岩機	20
	ハンマドリル	21
	生物剤検知器	3
測定用器具	可燃性ガス測定器	27
	有毒ガス測定器	33
	酸素濃度測定器	17
	放射線測定器	60
	化学剤検知器	6
	空気呼吸器	197
呼吸保護用器具	空気補充用ボンベ	270
	酸素呼吸器	39
	簡易呼吸器	12
	防塵マスク	116
	送排風機	31
	エアラインマスク	5

隊員保護用器具	耐電手袋	135
	耐電衣	63
	耐電ズボン	61
	耐電長靴	96
	防塵メガネ	97
	携帯警報器	80
	防毒マスク	85
	化学防護服（陽圧式化学防護服を除く）	101
	陽圧式化学防護服	61
	耐熱服	15
器除染用具	放射線防護服	24
	特殊ヘルメット	
	除染シャワー（歩行可能者用）	3
	除染シャワー（歩行可能者・担架用）	2
水難救助用器具	除染剤散布器	3
	除染シャワー（多人数対応用）	
	潜水器具	72
	救命胴衣	255
	水中投光器	31
	救命浮環	31
	浮標	17
	救命ボート	22
	船外機	14
	水中スクーター	14
器具	水中無線機	10
	水中時計	10
	水中テレビカメラ	1
	登山器具	7
山岳救助器具	バスケット型担架	45
	簡易画像探索機	7
	高画像探索機	9
	地中音響探知機	1
	熱画像直視装置	19
	夜間暗視装置	2
	電磁波探査装置	
	二酸化炭素探査装置	
	水中探査装置	
	地震警報器	1
その他救助用器具	投光器	51
	携帯投光器	45
	携帯拡声器	57
	携帯無線機	62
	応急処置用セット	23
	車両移動器具	19
	緩降機	20
	ロープ登降機	50
	救助用降下機	56
	発電機	51

第3 自衛隊災害派遣による離島急患搬送

離島における医療体制の実情により、現地では治療困難な患者で、一刻も早く専門病院での手当が必要である者に対して、昭和36年から自衛隊に対し、災害派遣要請（航空機搬送）を実施している。

搬送機関・活動範囲

海上自衛隊第1航空群 鹿屋航空分遣隊（鹿屋市）

十島村以北

陸上自衛隊第15旅団 第15ヘリコプター隊（沖縄県那覇市）

奄美大島以南

1 自衛隊災害派遣（離島急患搬送）の状況

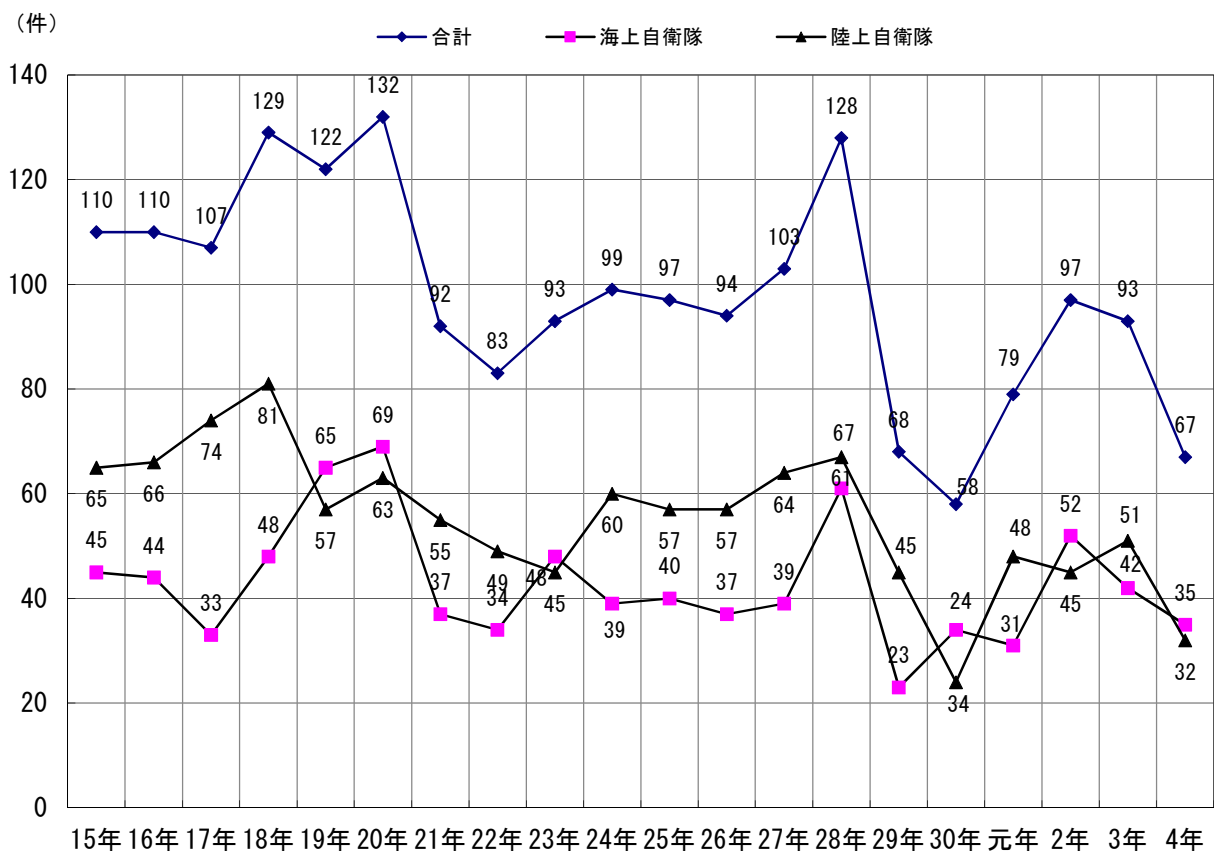
令和4年中における急患搬送出動件数は67件である。（図9）

出動件数67件を郡別にみると、大島郡（奄美市を含む）が40件（全体の59.7%）で、次に熊毛郡（西之表市を含む）が18件（同26.9%）、鹿児島郡が8件（同11.9%）となっている。（図10及び表24）

また、月別では、5月の9件が最も多く、時間帯別（派遣要請時間）では18時から20時までが13件で最も多くなっている。（表25）

令和4年中の搬送人員を傷病別にみると、内臓疾患によるものが39人（全体の58.2%）で最も多く、次にその他が11人（同16.4%）となっている。（表26及び表27）

図9 過去20年間の災害派遣（急患搬送）出動件数



(注) 「海上自衛隊」には、教育航空集団を、「陸上自衛隊」には南西航空混成団をそれぞれ含んでいる。

図10 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）の出動件数（その1）

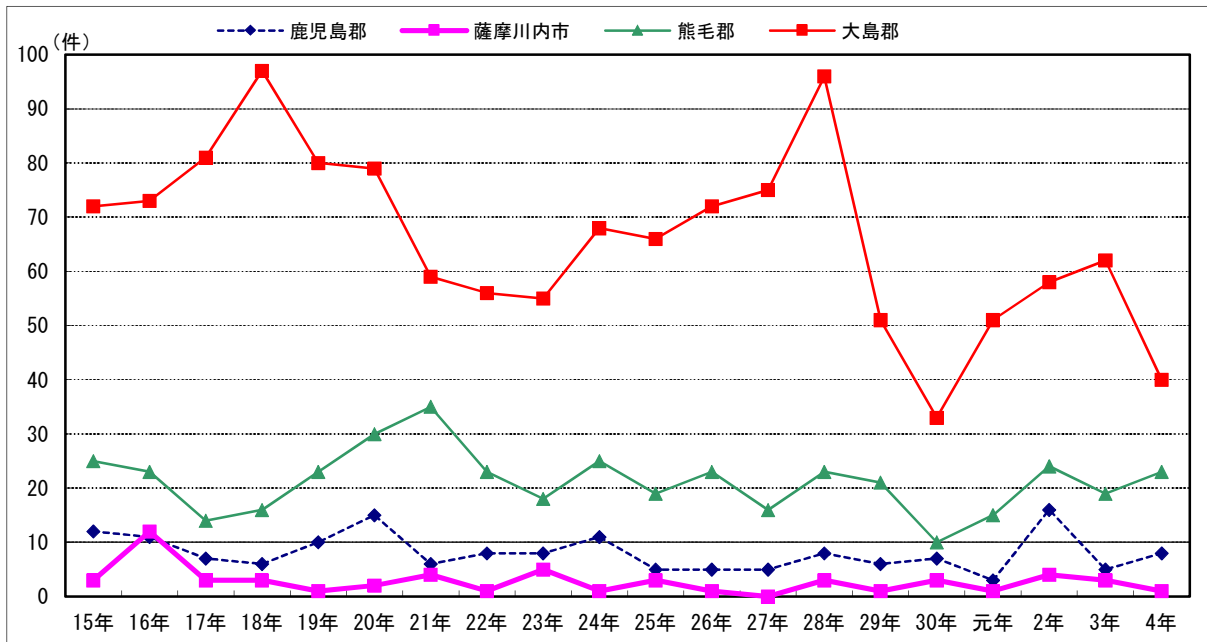


表24 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）出動件数（その2） (年中)

年	郡別	計	鹿児島郡	薩摩川内市	熊毛郡	大島郡	計のうち不搬送件数
平成 15 年		102 (65)	16	6	25	55 (65)	鹿屋2件
16		110 (66)	12	3	23	72 (66)	
17		110 (74)	11	12	14	73 (74)	
18		107 (81)	7	3	16	81 (81)	
19		129 (56)	6	3	23	97 (56)	鹿屋1件
20		121 (64)	10 (1)	1	30	80 (63)	鹿屋2件、沖縄2件
21		131 (55)	15	2	35	79 (55)	鹿屋1件
22		92 (49)	6	4	23	59 (49)	
23		83 (44)	8	1	18	56 (44)	鹿屋1件、沖縄2件
24		93 (61)	8 (1)	5	25	55 (60)	鹿屋1件、沖縄1件
25		99 (57)	11	1	19	68 (57)	沖縄1件
26		97 (57)	5	3	23	66 (57)	沖縄1件
27		94 (64)	5	1	16	72 (64)	沖縄1件
28		103 (67)	5	0	23	75 (67)	
29		128 (45)	8	3	21	96 (45)	沖縄1件
30		68 (24)	6	1	10	51 (24)	
元		58 (48)	7	3	15	33 (48)	
2		79 (55)	3	1	24	51 (55)	
3		97 (51)	16	4	19	58 (51)	
4		67 (32)	8	1	18	40 (32)	
計		1,968 (1,115)	173 (2)	58	420	1317 (1113)	沖縄分構成比
構成比率		100.0%	8.8%	2.9%	21.3%	66.9%	(56.7%)

- (注) 1 () 内は沖縄自衛隊出動件数の内書きである。
2 便宜上、熊毛郡には西之表市、大島郡には奄美市をそれぞれ含めている。
3 平成20年及び24年の鹿児島郡には、各年1件ずつ、離島外からの搬送を含む。

余 白

表25 過去20年間の月別及び時間帯別災害派遣（離島急患搬送）出動件数

年別 区分		15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
月別	1	5 (2)	10 (6)	9 (5)	11 (5)	8 (4)	21 (11)	12 (5)	7 (4)	11 (3)	3 (2)
	2	4 (4)	15 (10)	8 (8)	11 (8)	8 (3)	9 (4)	8 (8)	9 (7)	4 (4)	13 (8)
	3	13 (5)	10 (4)	10 (7)	9 (7)	16 (10)	15 (6)	4 (4)	3 (2)	9 (4)	5 (3)
	4	8 (5)	9 (5)	10 (7)	11 (7)	9 (6)	9 (3)	6 (4)	7 (3)	5 (1)	11 (5)
	5	11 (9)	7 (6)	11 (7)	7 (6)	4 (1)	9 (6)	9 (5)	5 (4)	5 (4)	5 (4)
	6	12 (5)	4 (3)	8 (6)	11 (5)	10 (4)	5 (3)	7 (6)	6 (4)	8 (1)	8 (4)
	7	9 (5)	7 (4)	7 (6)	11 (7)	2 (2)	7 (4)	6 (5)	5 (3)	7 (6)	9 (6)
	8	5 (3)	4 (2)	5 (5)	13 (7)	11 (6)	10 (5)	10 (5)	6 (4)	6 (2)	9 (7)
	9	8 (7)	15 (11)	8 (5)	8 (4)	7 (3)	4 (2)	8 (3)	5 (4)	9 (5)	7 (5)
	10	13 (5)	10 (7)	13 (10)	6 (5)	21 (8)	12 (4)	9 (5)	11 (1)	10 (7)	9 (4)
	11	11 (7)	11 (6)	8 (4)	17 (9)	13 (4)	18 (8)	6 (1)	10 (4)	12 (4)	11 (8)
	12	11 (8)	8 (2)	10 (4)	14 (11)	13 (6)	13 (7)	7 (4)	9 (9)	7 (4)	9 (4)
計		110 (65)	110 (66)	107 (74)	129 (81)	122 (57)	132 (63)	92 (55)	83 (49)	93 (45)	99 (60)
時間帯別	0～2	10 (6)	6 (3)	3 (3)	6 (3)	2 (1)	6 (1)	9 (3)	7 (6)	5	8 (5)
	2～4	2 (1)	2 (1)	4 (2)	3 (2)	2 (1)	4 (2)	2 (1)	3	5 (2)	4 (2)
	4～6	2	5 (4)	4 (2)	5 (3)	5 (2)	3 (2)	3 (1)	1 (1)	1	5 (2)
	6～8	3 (2)	6 (3)	10 (8)	5 (3)	7 (4)	3	2 (1)	1	1 (1)	5 (5)
	8～10	19 (16)	13 (9)	7 (5)	11 (5)	13 (4)	13 (4)	4 (2)	9 (6)	9 (4)	5 (5)
	10～12	21 (12)	21 (15)	14 (9)	21 (14)	19 (11)	12 (6)	13 (11)	9 (4)	10 (8)	9 (6)
	12～14	9 (7)	11 (6)	11 (10)	19 (13)	11 (7)	15 (11)	11 (7)	12 (6)	6 (2)	5 (2)
	14～16	6 (6)	12 (10)	8 (5)	5 (3)	10 (5)	18 (10)	9 (7)	11 (8)	5 (2)	7 (5)
	16～18	12 (6)	9 (3)	14 (9)	18 (15)	10 (3)	11 (8)	11 (5)	7 (5)	11 (8)	13 (8)
	18～20	5 (1)	11 (7)	9 (6)	13 (7)	21 (5)	11 (4)	10 (5)	5 (2)	14 (3)	15 (9)
	20～22	14 (5)	9 (3)	14 (8)	11 (8)	13 (8)	13 (5)	7 (5)	10 (6)	20 (12)	11 (6)
	22～24	7 (3)	5 (2)	9 (7)	12 (5)	9 (6)	23 (10)	11 (7)	8 (5)	6 (3)	12 (5)

(注) 1 () 内は沖縄自衛隊出動件数の内書きである。

2 「時間帯」は、自衛隊への派遣要請時間である。

(年中)

25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	計
14 (6)	6 (3)	6 (4)	17 (10)	6 (5)	5 (3)	4 (1)	5 (1)	12 (9)	7 (4)	179 (93)
1 (1)	2 (1)	10 (6)	5 (3)	2 (2)	7 (2)	7 (4)	6 (3)	7 (5)	6 (1)	142 (92)
9 (6)	10 (6)	9 (8)	11 (7)	3 (2)	4 (2)	7 (5)	7 (3)	6 (3)	6 (2)	166 (96)
7 (3)	10 (8)	6 (3)	9 (3)	6 (5)	3 (1)	3 (3)	3 ()	6 (3)	6 (4)	144 (79)
5 (4)	5 (2)	4 (4)	8 (4)	4 (1)	5 (1)	6 (5)	4 (2)	6 (2)	9 (4)	129 (81)
8 (4)	8 (5)	3 (2)	11 (5)	2 (1)	2	7 (6)	8 (4)	3 ()	6 (3)	137 (71)
15 (7)	7 (5)	16 (11)	15 (10)	6 (2)	5 (4)	6 (4)	11 (6)	5 (3)	8 (5)	164 (105)
2 (1)	8 (7)	9 (4)	15 (5)	10 (7)	5 (2)	7 (6)	6 (4)	9 (6)	2 (2)	152 (90)
6 (5)	6 (2)	10 (4)	10 (8)	6 (4)	5 (4)	5 (2)	8 (2)	10 (5)	3 (2)	148 (87)
10 (7)	12 (8)	11 (6)	6 (5)	8 (7)	5 (2)	9 (5)	7 (4)	6 (1)	4 (2)	192 (103)
12 (8)	9 (5)	11 (6)	11 (2)	8 (5)	7 (1)	9 (4)	10 (5)	12 (9)	5 (2)	211 (102)
8 (5)	11 (5)	8 (6)	10 (5)	7 (4)	5 (2)	9 (3)	22 (11)	11 (5)	5 (1)	197 (106)
97 (57)	94 (57)	103 (64)	128 (67)	68 (45)	58 (24)	79 (48)	97 (45)	93 (51)	67 (32)	1961 (1105)
5 (4)	8 (5)	7 (6)	11 (5)	7 (4)	3 (1)	8 (4)	9 (3)	6 (2)	7 (3)	133 (68)
6 (3)	4 (1)	7 (2)	7 (6)		4 (2)	6 (2)	5 (2)	6 (5)		76 (37)
2 (1)	3 (2)		8 (3)	3 (1)	3	0 ()	5 (3)	4 (3)	3 (1)	65 (31)
3 (3)	5 (4)	2 (2)	5 (3)		2	0 ()	3 (2)	2 (2)	4	69 (43)
3 (3)	9 (6)	5 (4)	10 (6)	1 (1)	0	2 (2)	0 ()	3 (2)	1 (1)	137 (85)
10 (9)	6 (3)	12 (8)	16 (7)	1	0	2 (2)	3 (3)	4 (1)	3 (2)	206 (131)
14 (9)	10 (8)	10 (6)	11 (8)	1 (1)	3 (1)	2 ()	10 (5)	10 (4)	1 (1)	182 (114)
5 (3)	6 (5)	9 (2)	8 (4)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	11 (7)	5 (5)	4 (1)	144 (93)
14 (8)	10 (3)	17 (11)	12 (7)	9 (6)	2 (1)	15 (8)	5 (2)	9 (4)	9 (3)	218 (123)
16 (6)	13 (9)	17 (12)	25 (11)	11 (9)	19 (10)	13 (9)	16 (6)	19 (10)	13 (4)	276 (135)
10 (4)	9 (6)	11 (8)	7 (2)	23 (15)	13 (6)	17 (8)	20 (5)	16 (8)	12 (9)	260 (137)
9 (4)	11 (5)	6 (3)	8 (5)	10 (6)	8 (2)	12 (11)	10 (7)	9 (5)	10 (7)	195 (108)

表26 令和4年中の市町村別搬送人員傷病別内訳

市町村別		傷病別 合 計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・ 婦人科	小児科	内臓疾患	その他
			頭部	その他	頭部	その他						
鹿児島県	三島村	3									2	1
	十島村	5					2				1	2
薩摩川内市		1									1	
熊本県 (西之表市含)	西之表市	1									1	
	中種子町	3							1		2	
	南種子町	2							1			1
	屋久島町	12					1				10	1
大島県 (奄美市含)	奄美市	8 (6)									8 (6)	
	龍郷町											
	大和村											
	宇検村	1							1			
	瀬戸内町	1										1
	喜界町	7 (4)				1	1 (1)		1 (1)		3 (2)	1
	徳之島町	6 (6)		1 (1)			2 (2)			1 (1)	1 (1)	1 (1)
	天城町											
	伊仙町	2 (1)							1		1 (1)	
	和泊町	6 (6)					2 (2)				2 (2)	2 (2)
	知名町	4 (4)									3 (3)	1 (1)
	与論町	5 (5)							1 (1)		4 (4)	
計		67 (32)		1 (1)		1	8 (5)		6 (2)	1 (1)	39 (19)	11 (4)

(注1) ()内は、沖縄自衛隊搬送人員の内書きである。

(注2) 不搬送の傷病者は含まない。

表27 過去20年間の離島急患搬送人員及び傷病別内訳

(年中)

傷病別 年別	計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・ 婦人科	小児科	内臓疾患	その他
		頭部	その他	頭部	その他						
15	110 (66)	2 (1)	2 (1)		4 (1)	30 (15)	3 (1)	12 (11)	10 (9)	38 (22)	9 (5)
16	111 (66)	1 (1)	1 (1)		1	23 (11)	2 (1)	13 (8)	20 (16)	47 (28)	3
17	103 (71)		1			21 (16)	4 (2)	21 (15)	5 (5)	46 (30)	5 (3)
18	126 (79)		4 (4)	1 (1)	2 (1)	24 (9)		29 (20)	11 (7)	51 (35)	4 (2)
19	117 (55)		1 (1)		4 (2)	19 (11)		21 (11)	15 (7)	47 (20)	10 (3)
20	131 (64)	1	1		3 (1)	29 (17)	2 (1)	23 (9)	18 (11)	45 (21)	9 (4)
21	93 (56)	1 (1)	2	2 (1)	1	19 (11)		16 (10)	10 (6)	37 (25)	5 (2)
22	83 (49)	2 (1)	1 (1)			17 (9)	4 (3)	14 (7)	2 (2)	30 (18)	13 (8)
23	94 (46)		1			21 (9)	1 (1)	22 (6)		36 (23)	13 (7)
24	101 (61)	1	5 (2)			18 (10)	2 (1)	13 (5)	5 (5)	46 (32)	11 (6)
25	96 (56)	1 (1)	1		3 (2)	12 (4)		21 (13)	1 (1)	38 (25)	19 (10)
26	93 (56)	2 (1)	6 (4)		3 (3)	7 (3)		17 (10)	6 (4)	39 (21)	13 (10)
27	104 (65)	4 (3)	4 (1)	3 (1)	3	13 (10)	4 (2)	13 (8)	1	49 (33)	10 (7)
28	128 (67)	2	1 (1)		2	24 (17)	3 (1)	17 (9)	4 (2)	48 (22)	27 (15)
29	68 (45)		3 (3)			17 (11)	1 (1)	2 (1)	9 (7)	26 (17)	10 (5)
30	58 (24)			1 (1)	1	6 (4)		7 (2)	2 (1)	30 (14)	11 (2)
元	79 (48)				3 (3)	21 (9)	2 (2)	5 (4)	3 (2)	40 (24)	5 (4)
2	104 (55)	1	2 (1)	1		13 (9)	2	4 (1)	4 (4)	48 (27)	29 (13)
3	93 (51)		3 (2)	1 (1)		5 (3)	1 (1)	3 (1)	6 (5)	59 (30)	15 (8)
4	67 (32)		1 (1)		1	8 (5)		6 (2)	1 (1)	39 (19)	11 (4)

(注) ・本表は、鹿屋の海上自衛隊第1航空群及び沖縄の陸上自衛隊第15旅団（内書き）が搬送した人員である。
・不搬送の傷病者は含まない。

第4 消防・防災ヘリコプターの活動

1 消防・防災ヘリコプターの導入

県では、大規模災害時における広範な消防防災活動を行うほか、急患搬送、災害危険箇所の調査点検などに幅広く活用するとともに、災害時の被害状況をよりの確かかつ迅速に把握するため、消防・防災ヘリコプター「さつま」を導入し、平成10年4月1日、運航拠点となる枕崎空港（現枕崎ヘリポート）に防災航空センターを設置するとともに枕崎市、南さつま市、指宿南九州の3消防本部から派遣された消防職員6名で編成する鹿児島県防災航空隊を発足させた。

平成30年12月19日に、経年劣化による不具合の発生を防止し、更なる安定的な運航を図ることを目的とし、新たな機体への更新を行い、令和元年5月11日から運航を開始した。

なお、令和2年4月1日から令和5年3月31日まで、熊毛地区消防組合より派遣された消防職員1名を加え、航空隊7名体制となっている。

2 消防・防災ヘリコプターの活動内容

消防・防災ヘリコプターは以下の活動を行うこととしている。

- (1) 災害応急対策活動
 - ア 被災状況等の調査及び情報収集活動
 - イ 食糧、衣料その他の生活必需品及び復旧資材等の救援物資及び人員等の搬送
 - ウ 災害に関する情報、警報等の伝達等広報宣伝活動
 - エ その他、災害応急対策活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合
- (2) 救急活動
 - ア 山村及び離島等からの救急患者の搬送
 - イ 傷病者発生地への医師搬送及び医療機材等の搬送
 - ウ 高度医療機関のない地域からの傷病者の施設間搬送
 - エ 消防・防災ヘリの積極的活用としての本土内搬送
 - オ その他、救急活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合
- (3) 火災防ぎょ活動
 - ア 林野火災等における空中からの消火活動
 - イ 被災状況調査及び情報収集活動
 - ウ 消防隊員及び消防資機材等の搬送
 - エ その他、火災防ぎょ活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合
- (4) 救助活動
 - ア 河川及び海等での水難事故並びに、山岳遭難事故等における捜索又は救助
 - イ 高層建築物火災における救助
 - ウ 山崩れ等の災害により、陸上から接近できない被災者等の救出
 - エ 高速道路及び自動車専用道路での事故救助
 - オ その他、救助活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合
- (5) 広域航空消防防災応援活動等
 - ア 県が締結している他県との相互応援協定等による相互応援
- (6) 災害予防活動
- (7) 自隊訓練のための活動
- (8) 各種防災訓練等への参加等
- (9) その他知事が必要と認める活動

表28 消防・防災ヘリコプター「さつま」の諸元・性能

		～令和元年5月11日(旧機体)	令和元年5月11日～(新機体)
型 式		ベル式412EP型	レオナルド式AW139型
定 員		13名（増槽タンク非装着時15名）	14名（前席2名＋客席12名）
最 大 全 装 備 重 量		5,398kg	7,000kg
空 虚 重 量		3,820kg	4,579kg
有 効 搭 載 量		1,578kg	2,421kg
航 続 距 離		720km	1,250km
最 大 巡 航 速 度		259km/h	310km/h
限 界 高 度		6,096m	6,096m
全 長		17.1m	16.62m
全 幅		2.9m	4.22m
全 高		4.6m	4.98m
消 火 用 水 積 載 量		1,400ℓ	1,800ℓ

3 消防・防災ヘリコプターの運航状況（ベル412EP型，レオナルドAW139型）

令和4年中における運航件数は217件となった。

過去10年間の推移は下図のとおりであり，救急活動，山岳や海上での搜索，救助活動などの緊急運航や各種防災訓練を行った。

図11 過去10年間の活動状況

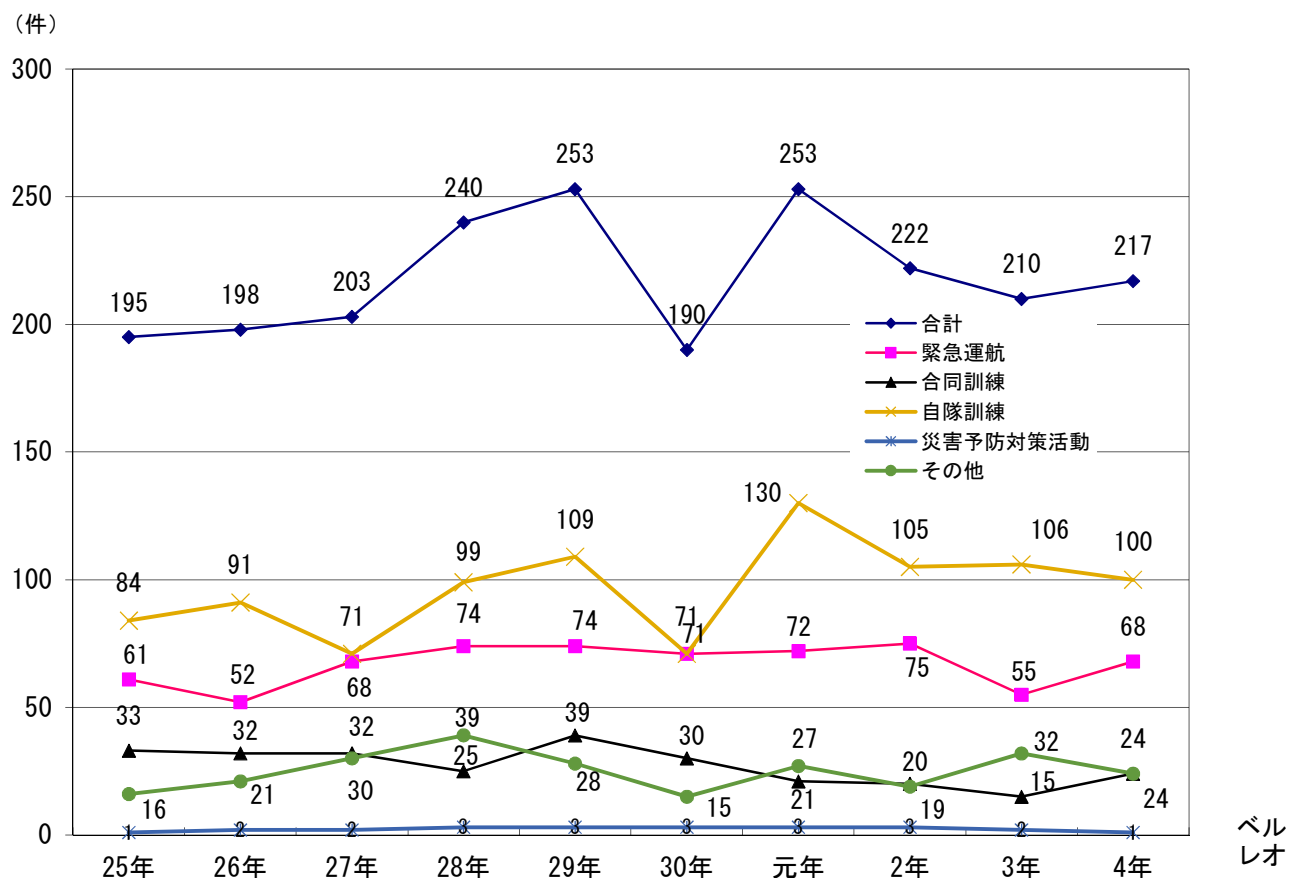


表29 消防・防災ヘリコプターの運航状況

(令和4年)

区分		月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合 計	総 計
緊急 運 航	災害応急 対策活動	件数									1				1	68件 98時間40分
		時間									2:10				2:10	
	救急活動	件数	2	4	6	2	2	6	2	8	4		7		43	
		時間	3:35	9:50	9:15	1:15	5:55	8:40	4:15	7:40	11:50		10:45		73:00	
	火 災 防 御活動	件数	1	1		1						1			4	
		時間	0:45	0:45		0:50						0:55			3:15	
	救助活動	件数	1	1		2	1	1		2		3	1		12	
		時間	0:30	0:45		0:50	0:30	0:30		1:40		4:50	1:35		11:10	
	広域応援	件数	1		1	2			2		2				8	
		時間	3:30		0:30	1:40			1:30		1:55				9:05	
	災害予防 活 動	件数									1				1	1件 2時間45分
		時間									2:45				2:45	
合 同 訓 練	他県広域 関 係	件数											2		2	24件 36時間00分
		時間											5:25		5:25	
	県市町村 関 係	件数		2				1	2		3	8	6		22	
		時間		2:25				4:15	2:30		4:15	10:05	7:05		30:35	
	合同訓練 事前訓練	件数														
		時間														
	自隊訓練	件数	8	12	16	11	10	10	5	10	4	8	6		100	100件
		時間	8:35	13:05	21:55	10:45	9:55	10:00	5:10	9:50	3:45	6:55	4:55		104:50	104時間50分
	その他	件数	6	2	1	1	2	1	3	3	2	1	2		24	24件
		時間	9:10	1:45	0:50	1:55	0:00	0:20	5:45	12:45	0:35	0:00	1:25		34:30	34時間30分
合 計		件数	19	22	24	19	15	19	14	23	17	21	24	0	217	217件
		時間	26:05	28:35	32:30	17:15	16:20	23:45	19:10	31:55	27:15	22:45	31:10	0:00	276:45	276時間45分

表30 消防・防災ヘリコプターの活動状況（R4年中）

(1) 災害応急対策活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	9/20		鹿児島県大隅地区	2:10
1件 1回 2時間10分					

(2) 救急活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	搬送人員	時 間
1	1	1/5		奄美市	1	3:25
2	1	1/7		指宿市	1	0:10
3	1	2/8		屋久島町	1	1:15
4	1	2/9		鹿児島市	1	5:00
5	1	2/18		霧島市	1	0:30
6	1	2/21		奄美市	1	3:05
7	1	3/3		屋久島町	1	0:45
8	1	3/3		屋久島町	1	0:50
9	1	3/7		徳之島町	1	1:40
10	1	3/7		徳之島町	1	1:50
11	1	3/26		西之表市	1	1:10
12	1	3/27		奄美市	1	3:00
13	1	4/2		指宿市	1	0:15
14	1	4/15		西之表市	1	1:00
15	1	5/14		奄美市	1	2:55
16	1	5/17		喜界町	1	3:00
17	1	6/3		徳之島町	2	1:50
18	1	6/3		徳之島町	1	1:55
19	1	6/6		指宿市	1	0:10
20	1	6/7		西之表市	1	0:55
21	1	6/23		西之表市	1	1:00
22	1	6/30		喜界町	1	2:50
23	1	7/6		奄美市	1	2:55
24	1	7/29		屋久島町	1	1:20
25	1	8/3		霧島市	1	0:25
26	1	8/20		薩摩川内市	1	0:30
27	1	8/20		薩摩川内市	1	0:25
28	1	8/26		十島村（諏訪之瀬島）	1	1:00
29	1	8/26		十島村（諏訪之瀬島）	1	1:10
30	1	8/27		西之表市	1	0:55
31	1	8/28		奄美市	1	3:00
32	1	8/31		日置市	1	0:15
33	1	9/1		喜界町	1	3:10
34	1	9/2		奄美市	1	3:00
35	1	9/12		鹿児島市	1	2:10
36	1	9/16		徳之島町	1	3:30
37	1	11/1		西之表市	2	0:40
38	1	11/1		西之表市	1	0:40
39	1	11/17		奄美市	1	3:10
40	1	11/17		屋久島町	1	1:10
41	1	11/18		南種子町	1	0:40
42	1	11/19		奄美市	1	3:15
43	1	11/21		屋久島町	1	1:10
43件 43回 73時間00分						

(3) 火災防ぎょ活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	1/4		大崎町	0:45
1	1	2/24		大崎町	0:45
1	1	4/8		志布志市	0:50
1	1	10/30		枕崎市	0:55
4件 4回 3時間15分					

(4) 救助活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	1/7		指宿市(山岳救助)	0:30
2	1	2/8		霧島市(山岳救助)	0:45
3	1	4/2		指宿市(山岳救助)	0:25
4	1	4/2		指宿市(山岳救助)	0:25
5	1	5/8		霧島市(山岳救助)	0:30
6	1	6/6		指宿市(山岳救助)	0:30
7	1	8/3		霧島市(山岳救助)	0:45
8	1	8/31		日置市(山岳救助)	0:55
9	1	10/8		指宿市(水難搜索)	1:10
10	1	10/13		志布志市(水難搜索)	1:45
11	1	10/20		阿久根市(水難搜索)	1:55
12	1	11/18		南種子町(水難搜索)	1:35
12件 12回 11時間10分					

(5) 広域航空消防防災応援活動

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	1/14		宮崎県（救急活動）	3:30
2	1	3/17		宮崎県（火災防ぎょ活動）	0:30
3	1	4/14		宮崎県（救助活動）	1:10
4	1	4/14		宮崎県（救急活動）	0:30
5	1	7/23		宮崎県（救助活動）	1:00
6	1	7/23		宮崎県（救急活動）	0:30
7	1	9/27		宮崎県（救助活動）	1:00
8	1	9/27		宮崎県（救急活動）	0:55
8 件 8 回 9 時間 0 5 分					

(6) 各種防災訓練等への参加等

件数	回数	月 日	訓練内容	訓練名及び実施場所	時 間
1	1	2/11	要員搬送・映像伝送	鹿児島県原子力防災訓練	0:50
2	1	2/11	映像伝送	鹿児島県原子力防災訓練	1:35
3	1	6/22	隊員投入・エバック誘導無し救助 ビタゴール救助	沖永良部与論地区広域事務組合合同訓練	4:15
4	1	7/26	隊員投入・エバック誘導無し救助	熊毛地区消防組合合同訓練	1:30
5	1	7/28	隊員投入	南さつま市消防本部合同訓練	1:00
6	1	9/22	隊員投入 バーティカル担架救助	始良市消防本部合同訓練	1:45
7	1	9/28	隊員投入 バーティカル担架救助	阿久根地区消防組合合同訓練	1:30
8	1	9/30	レスキュースリングノークット救助	薩摩川内市消防局合同訓練	1:00
9	1	10/6	隊員投入	日置市消防本部合同訓練	1:10
10	1	10/7	隊員投入・エバック誘導無し救助	指宿南九州消防組合合同訓練	0:45
11	1	10/11	要員搬送・情報収集・傷病者搬送訓練	令和4年度離島総合防災訓練	4:00
12	1	10/12	航空担架救助	第27期救助科教育合同訓練	0:50
13	1	10/18	情報収集・映像伝送	鹿児島県石油コンビナート等総合防災訓練（喜入地区）	0:30
14	1	10/19	バーティカル担架救助 エバック誘導無し救助	伊佐湧水消防組合合同訓練	1:30
15	1	10/29	レスキュースリングノークット救助	枕崎市消防本部合同訓練	0:25
16	1	10/31	エバック誘導無し救助	鹿児島市消防局・始良市消防本部合同訓練	0:55
17	2	11/4~11/5	情報収集・映像伝送	鹿児島県総合防災訓練	2:00
18	1	11/7	航空担架救助 ビタゴール救助	出水市消防本部合同訓練	1:35
19	1	11/8	隊員投入 航空担架救助	鹿児島市消防局合同訓練	1:05
20	1	11/13	エバック誘導無し救助	いちき串木野市総合防災訓練	0:50
21	1	11/20	エバック誘導無し救助	長島町消防団合同訓練	1:35
2 1 件 2 2 回 3 0 時間 3 5 分					

余 白